

議会広報 特別委員会

適度な余白ですっきりレイアウトを

読むことにストレスを感じない紙面づくりを研究



- 樹雄 夫彦 孝一
- 茂國 秀俊 則榮
- 橋内 辺原 田
- 高石 原渡 笠島
- 委員長
- 委員
- 副委員長
- 委員

今回はこのメンバーで、岩手県岩手町・矢中町の議会広報編集方法を視察してきました。



● 岩手県岩手町

小岩井農場やスキー場などでも有名な岩手町。秋田県に接し、人口約1万8000人の大自然に囲まれた美しい景観の町です。

岩手町議会だよりの特徴は、全国的にも珍しい横書きであることです。多くの自治体広報紙が縦書きである中、予算などの数字を処理しやすく、若い世代に抵抗がない横書き方式を、平成15年から採用しているとのことでした。行政広報紙と差別化できることも、利点となっているようです。

記事は、住民の関心が高い議案等を優先的に掲載するなど、住民目線の紙面づくりとなっています。

● 岩手県矢中町

県都盛岡市に隣接し、岩手県のほぼ中央に位置する矢中町。総人口は約2万7000人で、農地と都市郊外型の住宅が混在した町です。

矢中町議会だよりは昭和41年に創刊、既に190号発行されている歴史ある議会広報紙です。全国及び岩手県の議会広報コンクールでも数多く表彰されており、その高い編集技術が評価されています。視察時の最新号である9月定例議会議号は28ページ構成で、決算審議内容も充実していました。子どもを中心とした表紙の写真も印象的で、議会の情報が十分に掲載できる紙面が確保されています。



どちらの議会だよりも表紙はかわいい表情の子どもたち

まとめ

岩手県内には、全国的に評価の高い議会広報紙が数多くあります。評価の高い広報紙に共通しているのは、見やすい紙面であるということです。

今回視察した両議会とも、一般質問の記事は1ページ1ページとなっており、全体的に適度な余白のある、すっきりとしたレイアウトが特徴でした。

定例会ごとに記事のポリシーは違いますが、決まった紙面に無理やり詰め込むのではなく、記事に応じたページ数を確保し、余裕を持った紙面づくりが必要と感ずります。当議会も、読んでいてストレスを感じない、見やすい編集を心がけたいと思います。



矢中町の広報委員との活発な意見交換が行われました。